第4回稲毛区地域福祉計画推進協議会議事要旨

【1】開催

日 時 平成20年2月16日(土) 午前10時～午後12時25分
場 所 稲毛区役所 3階 講堂
出席者 委員23人(29人中)、ガイドヘルパー1人、手話通訳者2人、
事務局9人(福祉サービス課4人、千葉市社会福祉協議会稲毛区事務所
3人)、保健福祉局1人、保健福祉総務課2人

【2】次第

- 1 開会
- 2 委員長挨拶
- 3 議題(1)平成19年度地域福祉パイロット事業の実施状況について
(2)推進協だよりの発行について
(3)平成20年度推進協議会について
改選について
取組みについて
(4)市地域福祉計画等について
(5)地域福祉計画の関係団体等の35の具体的取組について
(6)その他

【3】議題

(1)平成19年度地域福祉パイロット事業の実施状況について

事務局が地域福祉パイロット事業実施状況について説明を行った。

地域福祉パイロット事業の今年度の実績は、市全体で26の地区部会により27の事業の申請があり実施している。また、稲毛区の実績としては、4地区部会から4の事業を展開している。パイロット事業が各地区においてより良い事業となるために、本協議会の委員の方々より参考意見をいただき、各地区ではそれぞれ特徴のある事業を展開している。

次に本年度、稲毛区において実施した(している)地域福祉パイロット事業の事業経過報告を地区部会所属の委員及び各団体所属の委員が行なった。

山王地区部会 【山王地区発、心のバリアフリープロジェクト】

これまで、ぐっぴいの会は山王地区部会、第305地区民生委員児童委員協議会等、地域の方々に支えられながら交流を深めてきた。この交流をより一層深め、また、他の地域で同じ悩みを抱えている団体・個人の方には是非参考にさせていただきたいと思い今回の申請に至った。

事業の内容は、交流・体験プログラム「お楽しみ会」を平成20年3月25日(火)10:00～12:00に山王小学校の体育館で実施する予定である。ボウリング、輪投げ、魚釣

り等のゲームの他、パネルシアターやチアリーディングの鑑賞もある。皆さんには是非見学という形で参加していただき、自分の地域に持ちかえっていただきたい。

活動紹介・意見交換会を平成 20 年 3 月 30 日（日）13:30～15:30 にでい・さくさべにて実施する。この場で、参加された方々に意見をいただき、次年度に向けてのアドバイスをしていただきたい。また、山王地区部会とぐっぴいの会がどのように関係づくりをしてきたのか、地域でもっと障害に対する理解を深めるためには、他の地区でもこうした取り組みを展開するにはどうしたらよいか等について、意見交換、情報交換を実施する予定である。

説明後、意見交換が行われた。主な発言内容は以下のとおり。

- （委員長）私もこの事業のお手伝いをさせていただいている。今回配ったチラシは、まだ「案」の状態であり不確定の部分もあるので、今後正式なチラシが完成次第配布及び掲示をしたいと考えている。
- （副委員長）私も山王地区部会の役員としてこの事業に携わっている。ぐっぴいの会と地区部会は携わってから 10 年ほど経つ。今回の取り組みの特徴としては、地区部会、ぐっぴいの会、NPO 千葉まちづくりサポートセンターの 3 者が連携して行事を行うという点である。今回は自治会にも声かけをし、参加を呼びかけている。是非、推進協議会の委員の方々も時間があれば参加していただきたい。
- （委員長）見に来るだけでもいいのか。
- （委員）文章だけでは分からないことも、実際に見ていただければ分かることもあると思う。是非、見ていただくだけで結構なので参加していただければと思う。
- （委員）ぐっぴいの会のメンバーは何歳からなのか。
- （委員）何歳からという括りは特にはない。会員は、当時始まった頃は小学生・中学生が多かったが、10 年経過しており、また会員もあまり増えていないこともあるが、ほとんど成人になっている。現在は、小学生～30 歳代の方々である。
- （委員）何人くらいいるのか。
- （委員）現在は 17 名いる。
- （委員）地域の会なので、年齢や障害の種別は特に設けていない。
- （委員）山王地区にあるあけぼの園に記念品の作成を依頼しており、施設との連携も視野に入れ考えている。

稲丘地区部会 【地域住民健康増進事業】

地域住民の健康維持・増進を図ることを目的とし、今年で 30 周年を迎える地区部会の諸行事に参加する方々に対して、「バンブー体操」を中心に家庭でも簡単にできる体操の普及活動を実施した。講師には、国際武道大学名誉教授 篠田基行氏を招き、9 月 9 日にリハーサル（社会体育指導員）、9 月 17 日の敬老会（参加者 - 約 324 名）、10 月 6 日の町別対抗競技会（参加者 - 約 290 名）、1 月 19 日の正月行事（参加者 - 約 428 名）、計 4 回の行事等に参加していただき、ご指導いただいた。竹の棒を使い、聴きなれたメロディー（大きな古時計、とんからりん、この広い野原いっぱい等）に合わせて口ずさ

みながら体操を行った。

地区内で初めての取り組みだったので、参加者からは大好評であった。竹の棒は 300 本制作したので平成 21 年度以降の行事にも引き続き「バンブー体操」を実施し地域住民の健康維持・増進に役立てていきたい。

説明後、意見交換が行われた。主な発言内容は以下のとおり。

(委員) やはり体操に使うには、この竹の大きさが一番ちょうどいい長さなのか。

(委員) ちょうど使いやすい長さだと思う。

(委員長) 来年からは、委員が指導するのか。

(委員) 私ではなく、地区部会に所属する体育指導員が指導する予定である。

(委員長) 誰にでもどこでもできるバンブー体操ということで気軽に楽しめるいい運動だと思う。

稲毛地区部会 【災害時一人も見逃さないための地図づくり】

本日、関係者が欠席だった為、事務局が以下のとおり説明した。

「安心して暮らせる安全な福祉のまち作り」を目標に、災害時自らの安全の為、また、地域住民を守る為の情報を共有することを目的としている。事業の内容は、一人暮らし高齢者宅を訪問、要援護者台帳を整備し、対応マニュアルについても考え、12月8日には稲毛公民館にて「災害の備えと対策 - 稲毛の安全を考える」という演題で、静岡県地震防災センターアドバイザーを講師として迎え講演会を実施した。また、子育て支援として、小児科情報・子育て支援情報・公園情報等子供が集まりやすい場所、親が知りたい場所等を掲載した子育てマップを現在作成中である。

説明後、意見交換が行われた。主な発言内容は以下のとおり。

(委員) 講師として静岡県の方が見えたようだが、千葉県にはこのような人材がいないのか。

(事務局) 講師の方は、静岡県地震防災センターアドバイザーとなっているが、千葉市に在住である。

(委員長) 今後、他でお願いしたときも安く来ていただけるのか。

(委員) 黒砂公民館で防災訓練を実施した時に、この方に来ていただいたように記憶している。そんなにお金はかからないと思う。このような防災マップ作成は、今後いろいろな地区で実施していくべきだと思う。

(委員長) 講師に講演を依頼したいということであれば事務局へ連絡すればよいのか。

(事務局) 連絡先を伺っているので要望があればコーディネートさせていただく。

(委員) 要援護者の方々の個人情報(高齢者の情報ではなく障害者の情報)はどのようになっているのか。

(事務局) 今回の災害時助け合いマップには、一人暮らし高齢者世帯、二人暮らし高齢者世帯を掲載したマップである。障害者の方の情報はなかなか入ってこない状態であるということは聞いている。

(委員) 私は、研修で静岡県に出向いたことがある。その際に感じたことは、災害に

対しての備え方が千葉と全く異なっていた、ということである。現在、災害が起きた時に人が人を助けるといったところにポイントをおいているが、静岡県の場合、各町に 町 番地の××が一番危険であるということの色分けし、危ない地域は、すぐ非難しなさいという地図が配られていた。今後このような問題を解決しながら考えていかなければいけないのではないかと思う。

- (委員) 毎回、障害を持っている方々の個人情報の問題が出てきている。今回の話を聞いていると民生委員が持っている情報をただ地図化しただけに過ぎない。手をつなぐ育成会、身体障害者団体連合会等様々な団体があると思うので、そういった団体と協力し考えていったほうが良いと思う。今後、マップを作成する地区があるようならば、様々な団体等と連絡を密に取っていただきたい。
- (委員) この問題をいつまでも議論してもしょうがないと思う。現在、お子さんが障害を持っている親は、自分が先に亡くなり、その後の子供のことを地域社会に援助してもらいたいという考えがある。しかし、子どもが成人していくとあまり公表したくないというのが現状である。行政は個人情報保護の問題で絶対情報を公開してくれない。だから、マップを作るときは「災害に備えて災害マップを作るので助けてほしい人は申し出てください」と回覧板等で知らせるようなことをしない限り難しいと思う。今後、行政に申請をしに来る時に民生委員と相談員に公表していいかどうかの確認をしてほしい旨お願いしている。
- (委員) 手をつなぐ育成会ではお母さん達は知っていただきたいと思っている。毎月会報を出している中で、その中にそうした物を折り込むことは可能である。
- (委員) 民生委員は各地区で自分の担当の区域がある。災害時等の際は、自分の子を助けてもらいたいと思う方は、各地区の担当の民生委員に自分の方から積極的に知らせるべきである。そうすれば、行政は関係なく個人的に助けていただけの範囲に入るのはないか。
- (委員) ぐっぴいの会は実施しているが、他地域ではどの民生委員が担当の方なのか知られていないというのを聞いたことがある。地域で防災・災害等の関係の情報集めの動きが周知されれば、お母さん方からアプローチしてくるのではないかと思う。
- (委員) 今後、民生委員に伝えていただけるよう各父兄にお知らせをしてみてもどうか。
- (委員長) この場では最善の答えを出すということではなく、様々な立場の方々が様々な問題を共有するということが重要である。

緑が丘地区部会 【歩きたくなる街づくりを目指して】

まず、住民の方々に危険な道路・安全な道路等を挙げてもらうアンケート調査(5,000世帯中500世帯に実施し、回答数:約250世帯)を実施した。下地には、稲毛区の防災マ

ップを参考にし、アンケート調査で得た危険な道路・安全な道路、警察や青少年育成委員会から得た引ったくりや痴漢があった場所、避難場所や備蓄倉庫等をマップに記載する予定である。また、できるだけ緑が丘地区を皆さんに知ってもらい興味を持ってもらうために、散歩するのにいい場所、一人でも歩きやすい場所、徳川家康、家光も関係している神社等、歴史的名所、旧跡の情報も記載したいと考えている。

今月末に最終の案を作成し、3月中旬頃完成予定である。当初予定では、地区内の危険地帯マップの作成であったが、危険地帯だけではなく緑が丘の様々な情報を掲載するので「緑が丘マップ」にしたいと考えている。

説明後、意見交換が行われた。主な発言内容は以下のとおり。

(委員長) このマップの発行部数はいくつか。

(委員) 全戸配布の予定である。

(2) 地域福祉計画の広報・PRについて

事務局が推進協だより第4号の発行について以下のとおり説明した。

第4回推進協議会だよりの発行については、前回同様、稲毛区地域福祉計画関係並びに今回の推進協議会の状況、そしてパイロット事業等について掲載する予定である。配布方法については、町内自治会の協力を得て、公共施設も含め約4,400部配布する予定である。

説明後、意見交換が行われた。主な発言内容は以下のとおり。

(委員長) 今年度最後の発行ということ、3月中に発行しなければいけないという状況ではあるが、推進協だよりの編集にご協力いただける方はいるか。来年度は、年度当初に推進協だより発行についての体制作りを行なっていきたいと考えている。

(3) 平成20年度推進協議会について

事務局から平成20年度推進協議会について以下のとおり説明した。

委員の改選について

要綱では、委員の任期は1年となっているので、来年度は改選である。来年度も協議会運営の継続性という点から、委員の方々には引き続き継続していただきたいと考えている。地域の団体・組織等から推薦されているの方々には、改めて事務局より推薦を依頼する予定である。また、団体・組織以外の分野から参加されている委員の方々には、後日、直接ご本人に就任依頼文書を送付する予定である。

(次年度の) 取り組みについて

地域福祉の推進は、地域の方々に「地域福祉計画」を十分知っていただき、一人でも多くの方に参加していただくことが大切である。したがって、20年度も引き続き、委員の皆さんで意見交換等を行なっていただき、皆さんの地域に浸透させていただきたいと考えている。また、来年度も今年度同様、年4回の開催を予定している。

説明後、意見交換が行われた。主な発言内容は以下のとおり。

以下発言者について、市保健福祉局は（保福局）とします。

- （委員）来年度の推進協議会で検討すべき問題は何であるか。今年度までは、パイロット事業があったが、来年度はこれに変わる事業はあるのか。
- （委員長）事務局として何かあるかということか。
- （委員）事務局としてではなく、千葉市として何か考えているのか伺いたい。
- （保福局）区推進協も 2 年目が過ぎ 3 年目に入ろうとしている。来年度はパイロット事業がなくなるのは確定しているが、それに代わる事業は考えている。しかし、地域福祉計画も 3 年目に突入し、もう一度、区計画はどのように進んでいるのか、また、今後、具体的にどのように進めていくのかを検討していく必要があるのではないかと思う。この 2 年間の推進協と今後の推進協は少し議論する内容を変えていってもいいのではないかとも思う。
- （委員）この 2 年間推進協に係ってきて感じたことは、推進協として物事を決定できる立場ではなかったのではないかと、ということだ。地域福祉計画が 2 年前に策定され、実施の進捗状況についてだが、パイロット事業は社協中心で進められてきたように感じる。区地域福祉計画を実施するにあたり、年 4 回位の開催では足りないのではないかと思う。
- （委員長）先程の話しの中で、今年度までの内容とは違っていくと思う。現時点では確定的な事はいえないと思うが、来年度委員になった方々で考えていければいいと思う。
- （保福局）推進協が地域福祉を進めるということはないだろうと思う。地域福祉とは地道な活動であり、小学校区、中学校区等、皆さんで集まり考え、地域にとって必要なことを実施していくことだと思う。
- （委員）委員長は、各委員の考えを吸い上げて行政等へ挙げていくべきではないのかと思う。地域福祉計画や福祉行政が上からおりてくるのではなく、もっと現場の意見を聞いて吸い上げる機会を推進協議会では発揮するべきだと思う。何となく年 4 回開催するだけでは寂しい気がする。
- （委員長）来年度の推進協議会をこの場で決定するということではない。最後に推進協議会に対するご意見を委員の方々よりいただきたいと思う。
- （委員）我々は、地域に住んでいるので、地域の問題は分かっているはずである。地域で起こっている問題等をこの場を借りて意見交換、また、呼びかけることは推進協議会としての役割として大きいのではないかと思う。

（４）市地域福祉計画等について

市保健福祉総務課が市地域福祉計画の進捗状況及び地域福祉活動事例集について以下のとおり説明した。

市地域福祉計画の進捗状況について

市地域福祉計画は、区計画に記載されている自助・共助を公助という形で支援する施策及び年単位で取り組む福祉行政の基盤整備等を掲載している。事業数は全体で 107

事業あり、このうち、平成 18 年度は 98 事業実施した。また、平成 19 年度は 99 事業実施した。

地域福祉活動事例集について

現在、印刷会社へ原稿を出している状況である。稲毛区推進協議会からは 2 名、編集委員としてご参加いただき、8 月・12 月に編集会議を開催し対象の選定ということでご協力いただいた。

この事例集は、千葉市で積極的に取り組まれている地域の福祉活動を紹介することにより、新たに地域福祉活動を始めようとする方、既に活動されている方がさらに活動の幅を広げようとする方々の参考にしていただくため、千葉市保健福祉総務課で作成している冊子である。事例集では、各区 2 事例ずつ、合計 12 事例紹介している。掲載されている主な活動主体は、自治会が 4、NPO が 4、社会福祉協議会地区部会が 3、社会福祉事業者が 1 と多様な地域活動の団体の事例を紹介している。活動内容は、基本的に日常生活の支援であるが、子育て関係、障害児・者に対しての福祉、大学との交流、社会福祉事業施設での地域交流等である。

稲毛区では、社会福祉協議会山王地区部会、NPO 法人ひだまりの 2 事業を取り上げさせていただいた。

事例集については 3 月中旬に発刊する予定であり、委員の方々には、完成次第配布する予定である。また、編集委員としてご協力いただいたの方々には心より感謝するしだいである。

説明後、意見交換が行われた。主な発言内容は以下のとおり。

以下発言者について、市保健福祉総務課は（保福総）とします。

- （委員長）市地域福祉計画の進捗状況についてだが、会議の残り時間の関係で急がせてしまったようだが、もう少しポイントがあれば補足の説明をいただきたい。
- （保福総）市地域福祉計画は、各区地域福祉計画に盛り込まれた自助・共助を中心とした取り組みを支援する公的施策や福祉を推進するための基盤作りとして全市的に実施するべき行政づくりを織り込んで作成されている。
- （委員長）これは本当に力を入れた事業であるというものはどれか。
- （保福総）地域福祉計画を支援することであれば、保健福祉センターの整備が挙げられる。昨年、美浜区と緑区と中央区に保健福祉センターが開所した。ボランティアセンターを含め福祉の活動拠点として基盤作りを進めている。残すは、稲毛区と花見川区となっている。
- （委員長）別紙については、後程じっくりご覧いただきたい。
- （委員）以前、事例集が発行される際に 1,500 部と伺っている。発行部数が少ないのではないか。事例集が、本当に困っている障害児・者及び高齢者に届かなければ意味がないように思う。もっと多くの方に見ていただけるような方法を考えていくべきだと思う。
- （保福総）昨年、1,500 部という説明をしたが、7,000 部に増刷し発行する。千葉市のホームページでもダウンロードできるようにする。また、千葉市では、平成 18 年度から市政出前講座を実施しており、市職員が地域に出向き説明を行って

いる。保健福祉総務課では、事例集の説明を中心に出席講座を行うということでエントリーした。

(委員長)是非、出席講座を活用していただければと思う。

(5) 区地域福祉計画の35の具体的な取組み状況について

今回は、委員長の提案で、区地域福祉計画策定時に分けた地区別の山王 - 草野地区、千草台中学校 - 緑が丘地区、轟・穴川 - 301(作草部・天台)地区、稲毛 - 稲丘 - 小中台地区の4つのグループに分けて意見交換を行なった。

その後、委員長の進行により各グループから報告があった。

グループの発表：これからの問題を話し合った。パイロット事業がなくなるのは仕方ないが、今後、各地域で実施した事業を地区に持ち帰りどのように継続していくかが課題である。また、社会福祉協議会が各地区にあるが、また所属していない委員の方々は、地区部会の一員になりましょう、という結論になった。

グループの発表：推進協議会の回数の議論になった。しかし、推進協議会が実施主体でないということで、4回開催ということで仕方ない部分もあると思った。パイロット事業で、様々な地域で取り組みをしていたが、必ずしも地域福祉計画に直接結びついていなかったかもしれない。しかし、福祉の課題が地域にたくさん出てきているのはとても重要だと思う。今後、パイロット事業がなくなったとしても、それを応援していけるような事業を新しく考えていただきたい。

グループの発表：推進協議会とは何か、という議論をした。市関係者から、推進協議会とは実施機関ではなく、推進協議会委員の方々に意見や情報交換をする場であり、その情報を地域に持ち帰るということを知り、理解した。

グループの発表：他のグループは、推進協議会の議論をされていたようだが、当グループは、地域の話し合いをした。隣り合う地区部会の情報がなかなか入ってこない。また、マンションが多くなっている為、情報が入ってこない。情報の危機ではないかという話し合いがされた。小中台地区部会についてだが、エリアとしてとても広すぎるという問題も出てきた。

最後に、各委員から1年の締めくくりとして一言ずつ挨拶をいただいた。

(3) その他

平成20年度第1回稲毛区推進協議会の開催は5月下旬から6月上旬を予定している。

以上